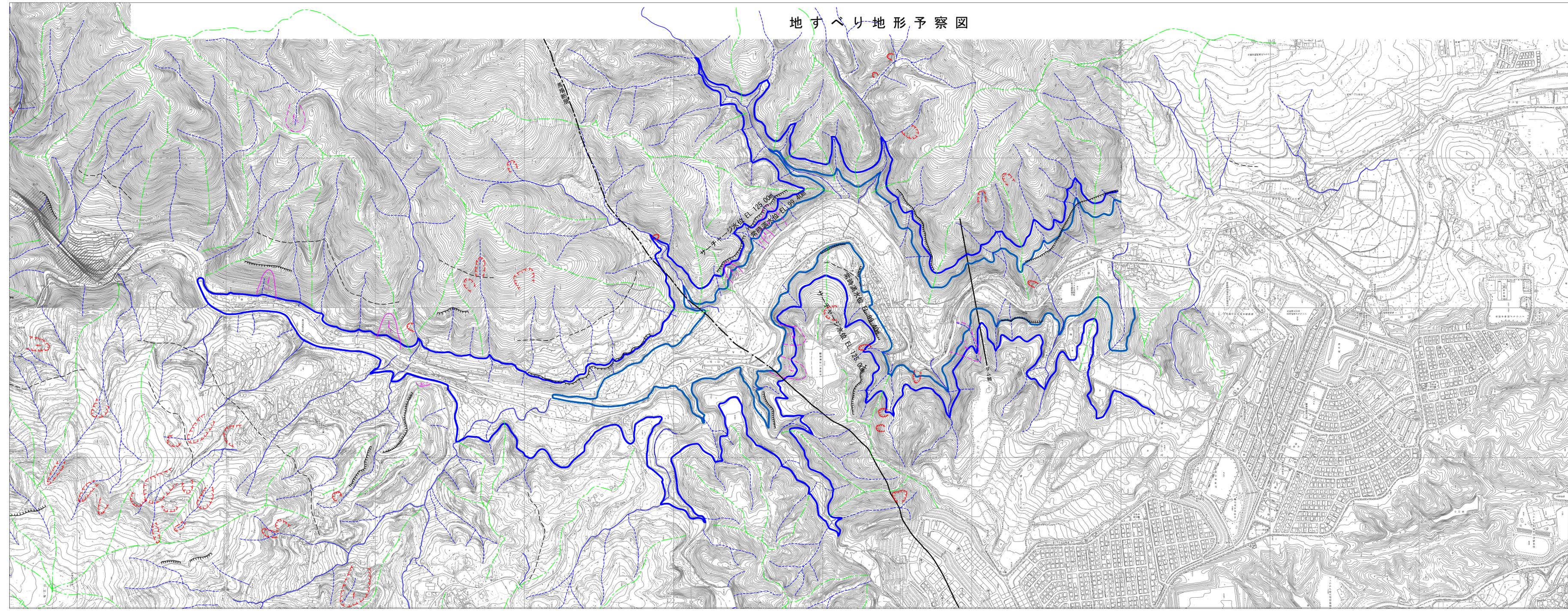


6. 貯水池内地すべり		
事 項	要 点	備 考
<p>6.1 貯水池内地すべり調査の流れ</p>	<div data-bbox="596 331 2427 409" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>●安威川ダム貯水池内には、湛水の影響により不安定化する可能性のある地すべりは存在しない。</p> </div> <p>安威川ダムにおける貯水池内地すべり調査のフローを、検討結果とともに図-6.1.1 に示す。</p> <div data-bbox="1032 556 1997 1669" style="text-align: center;"> <pre> graph TD     A[貯水池内地すべり調査開始] --&gt; B[貯水池周辺斜面の空中写真および地形図判読]     B --- C[地すべり地形は判読されない。]     B --&gt; D["【地すべり地形予察図】の作成"]     D --&gt; E[貯水池周辺の地表地質踏査]     E --&gt; F["【貯水池地質平面図】の作成"]     F --- G["貯水池周辺の基盤岩盤は、超丹波帯のホルンフェルス化した砂岩、粘板岩および茨木複合花崗岩体の花崗岩類である。貯水池周辺に地すべりは分布しない。"]     F --&gt; H["【地すべり地分布図】の作成"]     H --- I[地すべりは認められないため省略。]     H --&gt; J["【地すべり重要度】の評価"]     J --- K[地すべりは認められないため省略。]     J --&gt; L[貯水池内地すべり調査終了]                     </pre> </div> <p>図-6.1.1 安威川ダム貯水池内地すべり調査フロー</p>	<p>※「貯水池周辺の地すべり調査と対策」（建設省河川局開発課監修、平成7年9月）の図-4.1「貯水池周辺の地すべり概査の手順」を参照、編纂。</p>

6. 貯水池内地すべり		
事 項	要 点	備 考
6.2 貯水池内地すべりの調査結果	<p>(1) 貯水池周辺斜面の空中写真および地形図の判読</p> <p>貯水池周辺斜面の地形状況、特に地すべりなどの不安定化が予想される特異地形の抽出を目的として、空中写真および地形図の判読を行なった。</p> <p>空中写真および地形図判読の結果、谷頭部や安威川兩岸の急斜面部に小規模な崩壊地は多く判読されるが、<u>貯水池周辺に地すべり地形は判読されないことを確認した。(図-6.2.1)</u></p> <p>(2) 貯水池周辺の地表地質踏査</p> <p>貯水池周辺の基盤地質は、超丹波層帯のホルンフェルス化した砂岩、粘板岩を主体とし、車作地区南西部からダムサイト付近では茨木複合花崗岩体の花崗岩類が分布する。これらの基盤岩を覆って、南西部の緩斜面および丘陵地には大阪層群の砂礫層が分布するほか、竜王山南東山麓部の緩斜面部には高位段丘堆積物が分布し、車作地区より下流には中位段丘堆積物、低位段丘堆積物が分布する。また、左右岸の溪流沿いの緩斜面に谷底堆積物が分布し、山腹斜面に崖錐堆積物が分布する。</p> <p>また、<u>貯水池周辺斜面には、地すべりは認められないことを確認した。(図-6.2.2)</u></p> <p>(3) 貯水池内地すべり調査結果</p> <p>空中写真および地形図判読、地表地質踏査結果より、<u>安威川ダム貯水池内には湛水の影響により不安定化する可能性のある地すべりは存在しないと判断した。</u></p>	<p>図-6.2.1 地すべり地形予察図</p> <p>図-6.2.2 貯水池地質平面図</p>

# 地すべり地形予察図

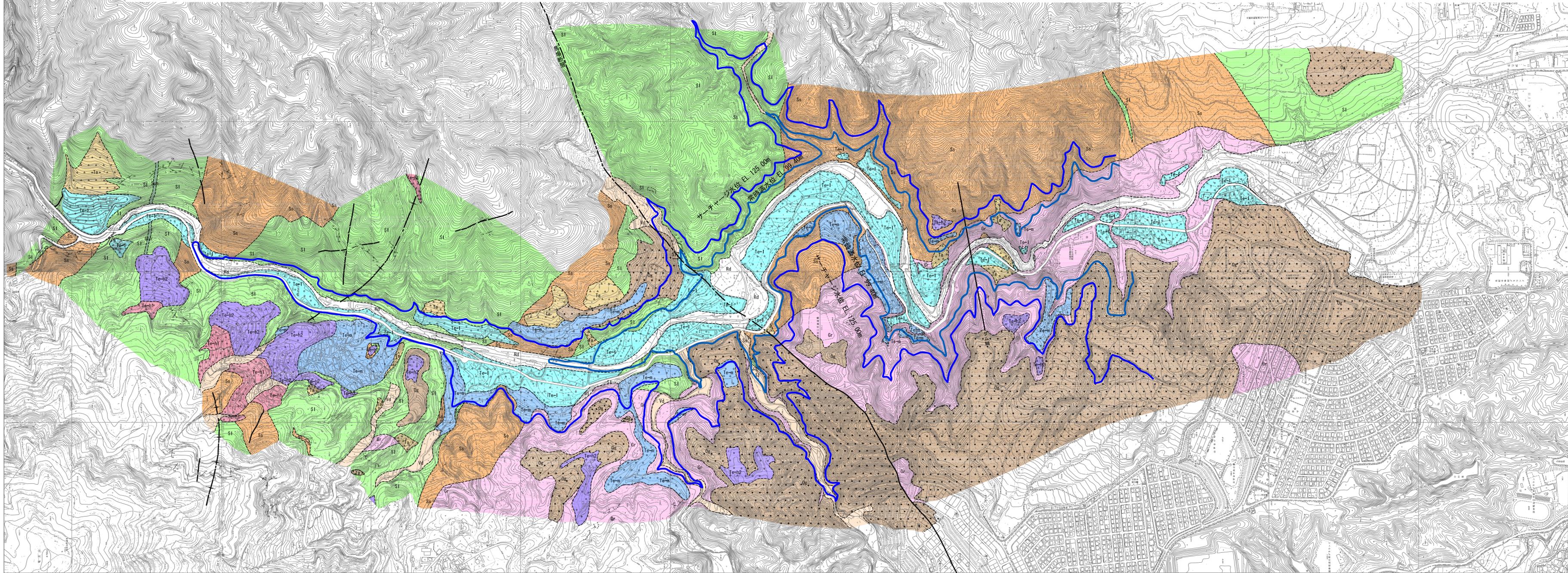


## 凡例

- 稜線
- 鞍部
- 破線は水無川
- 水系
- 遷急線
- 遷緩線
- 崩壊跡地形
- 明瞭 → 不明瞭
- 表層の風化岩の崩壊
- 明瞭 → 不明瞭
- 地すべり地形
- 明瞭 → 不明瞭



図-6.2.1 地すべり地形予察図



凡例

地質時代	地質名称	層相・層相	記号	備考
新第三紀	礫層	砂・角礫	Te-a	山腹および谷壁の礫層に分布。
	砂層	砂・砂	Te-b	安城川の河川道に分布。
	砂層	砂・砂	Vd	車作地区を中心に谷を埋めて礫層を形成。
新第四紀	砂層	砂・砂	Te-1	安城川の河川道に沿って分布。
	砂層	砂・砂	Te-m	安城川の河川道に沿って分布。
	砂層	砂・砂	Te-h2	安城川右岸において、比高60~80mに分布。
	砂層	砂・砂	Te-h1	車作地区を占. 220~240mに分布。赤褐色に土砂化している。
新第四紀	砂層(内層)	砂・砂	Te-n	車作~生保の礫層および丘縁の礫層に分布。比較的薄まっている。
	砂層(内層)	砂・砂	Te-n	(不詳)
白垩紀	灰岩・砂岩	Gr	車作地区南西部〜ダムサイト付近に山腹部ではマサ化が著しい。	
中生代	砂岩および砂岩	Ss	灰色~灰褐色を呈し、塊状のものや砂質・砂岩を呈するものがある。ホルンフェルス化している。	
三畳紀	砂岩および砂岩	Ss	層相および礫層。礫層は互層を呈するものが多い。ホルンフェルス化している。	
ペルム紀	砂岩	Si	層相を呈し、分布は極めてわずかなのである。	

- 断層(層相は伏せおよび推定)
- 向斜軸
- 地質境界線
- サーチャージ水位 (EL. 120.00m)
- 層相の走向・傾斜
- 新層の走向・傾斜
- 新層面の走向・傾斜
- 礫層地形(推定箇所)



図-6.2.2 貯水池地質平面図